レッスン：SPA47X

テーマ：多様性（複数性）

SPA47/KE8/NO.1

私の姉妹・兄弟達

スピリット、光そして火の子供達よ。私達は主、絶対、主の聖性に抱かれています。

以前、真理の探究者にとって気づきの上昇に向けたワーク以上に重要なワークはない、と述べました。いかなるパワーや能力が現れようとも、それは**生**の特質をより多く現すことの結果であるべきで、その時にのみ、それらのパワーや能力は同胞の人間にとって恩恵をもたらすものとなるであろう、と述べました。

ヒーラーになることについて多くの人が質問してきます。ヒーラーになるためには唯一の方法しかありません。それは自分自身のセルフについてワークをすることです。そしてそのワークとは再び、気づきを上昇させるためのワークであり、それ以外のものではありません。それをどのように行うのか？私たちはあなたの現在のパーソナリティーの上昇、言い換えれば思考・行動の仕方の上昇のためのたくさんのメソッド、方法を提供してきました。現在のパーソナリティーとは二つの体だけであり、肉体である三つ目の体はそれを通じて現在のパーソナリティーが物質界のバイブレーションのなかで自らを表現するための唯一の手段です。

私たちは生の多様性（複数性）について述べ、絶対存在は多様性という状態のなかでひとつであり、絶対存在のワンネスのなかには数え切れないほどの無数の「聖なるモナド・セルフ」がある、と述べました。ワンネスです、絶対存在はひとつなのです。

しかし、この多様性のなかにおけるモナドセルフについてはどうなのでしょうか？このモナドセルフは全体とは異なるのでしょぅか？この物質界のバイブレーションのなかで人間として生きている地点から見れば、私たちはそれは確かに異なる、なぜならばそれは全体ではないから、全体とは無数のモナドセルフの結果である、と答えるでしょう。さらに、質という点から言えばそれは同じであるが、量という点から見ればそれは同じではない、と答えるでしょう。しかし、質的、量的というとき、それらは単なる意味に過ぎません。実際、多様性のなかのモナドセルフもまた多様性なのです；このリアリティーを理解するのは非常に難しいことですが、実際そうなのです。生それ自体の多様性における各モナドセルフもまた絶対存在のワンネスを示しています。違いはありません、ワンネスという聖性のなかでは、全ては全てのなかにあるのです。

過去において、創造界における生の現れの多様性について述べました。魂のセルフ・エピグノシスの多様性、人間のイデアを通じての生の現れについて述べ、魂のセルフ・エピグノシスは同じであり、違いはなく、一つの魂を何か異なるものとして他の全ての魂から分離、区別することはできない、と述べました。それらは全て同じなのです。言い換えれば、もしあなたが生それ自体の世界、元型・イデア・法則と原因の世界において魂のセルフ・エピグノシスである一人の人間に会えば、実際あなたはそれらの世界において人間のイデアと会っていることになり、全ての人間と会っていることになるのです。違いはありません。勿論、これは自己実現の結果として、様々な色を持つことのないそれらの魂のセルフ・エピグノシスだけに当てはまることです。

かつて、アークエンジェルとしての現れについて、もしあなたが一人のミカエルに会うなら、それは全てのミカエルと会うのと同じである、と述べました。何故でしょうか？その特定のアークエンジェルのオーダーに属する全てのアークエンジェルは同じだからであり、さらには一つは同時に他の全て、全体を意味するからなのです。勿論、私たちがこのリアリティーについて述べるのは初めてです。

Page2

同じ事は、その本質を完全に現している生のみならず、特定の限界のなかにある生についても言えます。物質界のバイブレーションのなかで転生を通じて、ある人が現在のパーソナリティーの諸体を或るレベルまでマスターしたとします。このパーソナリティーは今や想念的欲望のエレメンタルを創造し、欲望的想念のエレメンタルを創造することはないのでしょうか？それらのエレメンタルは実際エンジェルのように働きます。それらは他の同胞の人間への奉仕に向けて働くのです。もしあなたがそれらのエレメンタルの一つと出会うなら、それはあたかもその特定のパーソナリティーが空間・時間の意味のなかで創造し、投射する全てのエレメンタルと出会うのと同じようです。なぜでしょうか？なぜなら、あらゆるエレメンタルは特定の思考・行動の仕方を示しているからです。思考・行動ですか？実際には違います。それは思考、思考と欲望という限界を超えています。なぜなら、それらのエレメンタルの中には正しい思考があるからです。

ここにも多様性（複数性）というリアリティーがあり、あなたがその一つと出会うとそれはあたかも全てと出会ったのと同じで、そこに違いはありません。しかし、現在のパーソナリティーの諸体を完全にマスターし、現在のパーソナリティーの自己実現に到達したその特定のパーソナリティーに関して言えば、それはどうなのでしょうか？そのパーソナリティーは今や無数の同一体（identical）、サイコノエティカルな同一体を投射することができ、各体はその現在のパーソナリティー全体を示しています。各同一体、恐らく10の同一体、あるいは100の同一体かもしれませんが。しかし、サイコノエティカル体の一つの同一体を投射する時、そこには投射するための聖なる理由があるはずです。そして聖なる理由と言うとき、それは他の同胞の人間を助けるということです。

ですから、10あるいは100の同一体があるとします。もしあなたが一つの同一体と出会う時、それはその特定の現在のパーソナリティーと出会うのと同じで、そこには違いはありません。繰り返しますが、それら同一体の一つ一つはその現在のパーソナリティー全体、ワンネスを意味します。なぜなら、ワンネスという時、それは全体を意味するからです。

ですから、現れの全てのバイブレーションにおける多様性というリアリティーがありますが、それはまた絶対生、言い換えれば絶対ワンネスのなかにおけるリアリティーでもあります。そしてある一つの同一体がその目的を果たすと、過去に述べたように、その同一体は現在のパーソナリティーのなかに吸収されます。現在のパーソナリティーはどこにあるのでしょうか？特定のサイコノエティカル体の中でしょうか？違います。一つだけではなく、他の全ての残っている同一体のなかにあります。そして同一体というとき、一つの「サイコノエティカル体」があり、他の全てはその特定のオリジナルに従って作られたと見なして混乱しないでください。違います。そうではありません。その現在のパーソナリティーは同一体としての全てのサイコノエティカル体のなかに広がっているのです。ですから、オリジナル・ワンなどというものはありません。

勿論、全ての同一体、あるいはその特定の現在のパーソナリティーの全てのサイコノエティカル体が現れている、あるいは存在している目的を果たすと、その多様性は今や一つになります。しかし、一つのなかにおいて、ワンネスとは多様性（複数性）の可能性でもあるのです。アウタルキーのなかにおける絶対存在に関しては、その多様性はどこにも吸収されることはありません。それは現在のパーソナリティーとは異なります。現在のパーソナリティーとは存在し、時には実在さえしますが、しかし絶対ワンネスのアウタルキーのステートに関してはどうでしょうか？それは何かアプローチ可能なもの、実際に触れることが可能なものでしょうか？答えはノーです。

しかし、絶対ワンネスのアウタルキーのなかでモナド・セルフのワンネスに同調することができるとしたら、それはあなたが全体に会う、同調するようなものです。しかし、それは可能でしょうか？答えはノーです。それは不可能です。帰還の道における魂のセルフ・エピグノシスにとっても、それは不可能です。それは、あなたが神へと戻ったとき、言い換えればテオーシス（＊神との再合一）に到達したときのみ可能です。しかし、自己実現したスピリット・セルフとしてテオーシスに戻る時、あなたのワンネスは前と同じでしょうか？答えはイエスでありノーです。あなた何も「失い」ませんが、そこには違いがあります。それはつまり、あなたのワンネスは異なった色を帯びるということです。あなたのワンネスは全体を意味しますが、しかし同時に、何か特別なもの、「異なった」何かを意味し、異なった自己実現を帯びるでしょう。以前は自己実現は一つである全体でしたが、今やモナド・セルフは、さらにセルフ、モナド・セルフとしての個としての自己実現を得るのです。

そのためにこそ神は黙想して表現、創造するのです。人間がこの物質次元で知っている宇宙、コスモスを創造するのです。しかし、不幸なことに、この次元における人間はあまり多くを知りません。しかし、創造界全体に関してはどうでしょうか？創造の諸世界における現れ全てについて人間は知っているでしょうか？答えはまたもやノーです。しかし、ほとんどの場合、人間はこれらの諸世界のなかの現れについて知りません；そして現れという時、それは全て生それ自体の現れなのです。

Page3

創造の諸世界で表現されているものは、様々なバイブレーション、いろいろな形における生なのでしょうか？ノー、そのように言うことはできません。なぜなら、生は一つの形を通じてのみ表現され、その形とは創造のセル（Cell of Creation）であり（＊以前は創造の小部屋と訳したかもしれませんが創造のセルとそのまま訳します）、それもまた人間のイデアを通じて与えられるものです。前に説明したように、このセルは汎宇宙的キリストロゴス、天上人(Heavenly Man)から与えられます。天上人とは実際に生の海であり、それは創造界、あらゆるものの中において、あらゆるものを活性化します。それは全ての中にあり、全てはそのフォーム、形に基づいて築かれます。それゆえにこそ、最小のなかにも最大のものがあるのです。そして最小という時、物質の原子をさえ意味しています。そして過去に説明したように、根本的な形、フォームとしての生命の木なしでは何ものも形を帯びることはできません。そして、それは物質の原子、超物質の原子、サブスタンスの原子、スーパーサブスタンスの原子などにおいても同じです。言い換えれば、マインドが存在し、実存し、形を帯びるためには生の海が必要なのです。言い換えれば、マインドはこの生の海なくしては存在、実存することができないのです。

さて、以前のレッスンで述べたように、探究者にとって最も重要なワークは四面ピラミッドの下にある現在のパーソナリティーの部屋のなかで行われます。今、四面ピラミッドはどこにあるでしょうか？四面ピラミッドは地上にあり、現在のパーソナリティーの部屋は地中のなか、地のエレメントのなかにあります。私達は実際このエレメントには関心がありませんが、しかし、人間が無知のなかにいる間は現在のパーソナリティーはこのエレメントに、そしてこのエレメントのみにフォーカスします。なぜなら、現在のパーソナリティーはこのエレメントに囲まれているからです。そして現在のパーソナリティーは、実際にはこの地のエレメントから築かれた肉体が自分の真のセルフだと見なしています。

肉体の主なエレメントは地のエレメントであると述べました。水のエレメントのように見えるかもしれませんが、それは違います。水のエレメントは前に述べたように、肉体をサイコノエティカル体と結びつけて活性化します。

四面ピラミッド、シンボルについて話しました；過去に多くのシンボルを提供しました。そうです、これからも引き続きそれらのシンボルを扱っていきます。生命の木もシンボルであり、この生命の木の上に沢山のシンボルがあります。私たちは実際、学ぶためにのみこれらのシンボルを使うのです。生の特質を完全に表現している時に、それらのシンボルを必要とするでしょうか？ノーです、それらは必要ありません。しかし、現在のパーソナリティーとしては、それらが必要です。なぜなら、私たちはそれらのシンボルをマスターすることによって（実際にはシンボルではなくて、シンボルが意味しているものですが）、存在のオリジナル、本来のステートへ戻るからです。

例えば、生命の木の一番上には大きな三角形があり、それはマクロコスモス的に絶対存在を意味します。様々な三角形があり、過去に分析したように四つの三角形があり、三つは上向き、一つは下向きです。四つとも皆同じ形をしており、それらは絶対英知および絶対存在のロゴス的本質、絶対善、絶対パワーを意味しています。しかし、実際、全てが全てのなかにあるそのステートにおいて、学ぶために私たちが行ったように様々な特質、質を分けることができるでしょうか？答えはノーです。分けることはできません。そのようなものはありません、なぜならそこには意味というものはないからです。

それでは、もし私たちが魂のセルフ・エピグノシスとしてノエティック界の生それ自体、生の諸世界のなかに立つとしたら、現在のパーソナリティーの世界の中でしたのと同じように、上方にアプローチできるでしょうか？答えはノーです。しかし、生がいかにしてそのリアリティーにアプローチするのか、私達にはわかりません。あるいは、魂、自己実現した魂としてのセルフ（Soul Self）がそれより上の世界にどのようにアプローチするのか、私達にはわかりません。

Page 4

様々なエレメントとの同調に向けた助け、そして覚えていると思いますが私たちは三つのエレメントだけにフォーカスします。非常に重要な水のエレメント、火のエレメント、そしてエーテル、空気のエレメントです。地のエレメントには触れません。

私たちは主、絶対、主の聖性に常に抱かれています。

気づきの上昇のためのワークにおいて、探究者は思考という能力を使う必要があります。さもないと前に進むことができません。あなた方は考え、思考する必要があります。そのためにこそ、私たちは知識を与えているのです。全てをそのまま受けとるのではなくて、あなた方に考えさせるためです。

**質問**：自己実現したパーソナリティーは無数のサイコノエティカルな同一体を投射できると言うことですが、私はそれとエクソマトシスとの違いがよくわかりません。その意識のステートでの投射は恐らく、肉体を物質化できる二番目のノエティカル体とは違うように思えるのですが。両者の違いを多様性（複数性）、多様性の教えとからめて教えていただけますか？自己実現したパーソナリティーは、エクソマトシスを行うために眠ることができるのでしょうか、あるいは特定のステートが必要となるのでしょうか？また同時に複数の体を投射することができるのでしょうか？

**答え**：過去に述べたように、現在のパーソナリティーがエクソマトシスという現象を通じて自己実現に到達するとき、言い換えれば、意識が完全にサイコノエティカル体に転送され、サイコノエティカル体を今や肉体とは分離した体として使用することができる時；そのパーソナリティーは今や、過去に述べたように、現在のパーソナリティーの体を必要な数だけいくつでも投射することができます。体ですって？そうです、サイコノエティカル体です、言い換えれば同一体です。

必要であれば、一つあるいはそれ以上のサイコノエティカル体が物質界のなかでも存在することができます。もしあなたがそれらの同一体の一つと出会うと、あなたはその特定の現在のパーソナリティー全体、ワンネスの現在のパーソナリティーと出会うことになります。しかし、勿論、その特定のパーソナリティーはその全体を相手に現すことはしないでしょう。相手がそれは他の一般の現在のパーソナリティーとは何か異なっていると認識するのを避けるためです。ですから、その真のセルフを見せることはしないでしょう。さもないと、それは現象となるからです。普通の人とは何か異なっていると相手に思わせることなく、何でも必要なことを行います。しかし、その同一体、つまりその投射を観察してそれがわかる人なら、あたかもその特定のパーソナリティー全体を完全に学ぶようなものです。

この物質界に生きている誰かが、エクソマトシスではなくて、想念的欲望のエレメンタルを現す結果として投射を行うとします；もしあなたがそれらのエレメンタルの一つを観察し、学ぶと、それはあたかもその特定のパーソナリティーが投射、創造する無数のエレメンタルを観察、学ぶようなものです。これではっきりわかりましたか？

**質問**：眠っているステートにいる必要がありますか？

**答え**：エクソマトシスを行うにはそれが必要ですが、同一体の投射を行うのに眠る必要はありません。話しをしている間でも、特定の目的のためにエンジェルを投射することができます。この物質界で何を行っていようとも可能です。なぜなら、繰り返しますが、各エレメンタルは現在のパーソナリティー総体を示しており、何であれ現在のパーソナリティー総体を行うことができるからです。「総体」がそれを知ることなしに。

**質問**：エレメンタルに関する質問です。例えば、私が夢を見て、その夢のなかであなたを見るとします。それは私自身が作り上げたもの、私自身のエレメンタルが創造したものですか？

**答え**：ほとんどの場合、それは現在のパーソナリティーが作り上げたものです。あなたにとって、何であれ他のパーソナリティーが創造する「オリジナル」を見るというのは、とても難しいことです。そのためにはそのパーソナリティーがかなり進んだレベルにいる必要があります。通常は、あなたは自分が創造したものを見ています。それはあたかも自分の理解する仕方を見るようなものです。あなたがこれはこういうものだと何かを解釈するのです。しかし、あなたが何であれ他の人が創造したものを見るのはとても困難です。

Page5

質問：テオーシスへの帰還、絶対ワンネスについてもう少し話していただけますか？多様性（複数性）からワンへと帰還が生じるべく、絶対ワンネスは拡散するのでしょうか？

答え：多様性はワンであり、多様性のなかのワンも多様性です；これを理解するのは非常に困難です。

**質問**：人間が歩むべき道、戻るための道があります…。

**答え**：勿論です。人間は神の黙想の結果であり、この神の黙想には目的があります。この黙想の現れのなかでは全てに目的があります。そうです、アウタルキーにおける現れがあります。なぜなら、創造と現れは神の黙想の活動以外の何ものでもないからです。それゆえに、私達は主のなかにあり、主は私たちのなかにあるのです。私たちがアウタルキーから離れたことは一度もありません。私たちはアウタルキーにおける特定の活動に入ったのです。そしてこの活動は神の黙想の活動です。

**質問**：私が理解するところでは、この帰還、スピリット・セルフが自己実現する時、何かそれ以上のものがあるとあなたが述べたと思うのですが。

**答え**：そのとおりです。「より以上のもの」があり、それは全体とは何か異なったモナド・セルフの自己実現です。しかし、モナド・セルフのワンネスのなかにもまた全体があります。神の黙想はモナド・セルフの自己実現のためなのです。

　　生が神の黙想のなかに入る時、そこに入るのはスピリット・セルフのワンネスの総体ではなく、ワンネスからの微細なスパークだけが入ります。なぜなら、総体（トータル）が入るとしたら、このリアリティーはどのようにして働くでしょうか；このリアリティーとは、全てが全ての中にあり、一つが全体を意味する、ということです。このワークを通じて、あなたは徐々にゆっくりと不定形の体に働きかけて気づきの上昇へと向かっていきます。それは最も重要なワークです。もしあなたが考えはじめ、何かとても役立つことを実行に移すとすると、それは特定の水の一滴に色をつけ、その一滴をたくさんの水滴の海に落とすのとは違います。なぜなら、もしそうすると色は薄くなり、消えてしまいます。全ての水滴に移行された色はあせて、消えてしまいます。

ということは、絶対存在は当初は現在とは違っていて、未来におけるそれとも異なっている、という意味になります。つまり絶対存在は進化する、という意味になります。しかし、絶対存在には進化などというものはありません。モナド・セルフの現れは前とは異なっています。それはアウタルキーのなかで、アウタルキーのステートのなかで表現しており（私は今表現する、現すという言葉を使います）、自己実現は必要ありません。アウタルキーのステートのなかではいかなるニーズ、必要性もないのです。生それ自体の諸世界のなかですら、ニーズはありません。黙想のステートには絶対存在があるので、必然的に自己実現したモナド・セルフは神の黙想の活動をさらに助けることができるようになります。言い換えれば、アウタルキーのなかでは、あなたが自己実現したスピリット・セルフであろうと、あるいはそうでなくても、たいした違いはありません。神の黙想の活動においてのみ、唯一の違いがあります。自己実現したスピリット・セルフからの微細なスパークは、神の黙想の活動にいっそう奉仕することができます。それだけです。

**質問**：しかし、あなたはそれは進歩ではないと言いますね。

**答え**：それは、私が持っていない何かを加える、ということではありません。私はそれを持っていますが、それをポケットから取り出すことはしません。ポケットのなかにあるのですが、それを取り出すことはしません。それは加えることではありません。私はそれを持っているのですが、それを使うためには特定の活動を経なければなりません。それだけです。それが実際に生じていることです。無からは無しかありません。絶対存在はその中にない何かを現すのではありません。誰も内側にないものを現すことはしません。無からは何も現れません。

　Page6

　過去に説明したように、絶対存在は“何も振動しておらず、動いていない状態での振動、バイブレーション”という特質があります。このステートでは、何も現れていません。完全に何も現れていません。それは何も現れていない状態で存在しているステートです。それについて考えてみてください。神の黙想とはそれ自身のなかにおける黙想であり、それを通じてなにも現されていません。そして生それ自体の諸世界があり、過去に述べたように、活動、振動、バイブレーションがあり、元型、イデア、法則、原因として活動、振動しているものがあります。そして今や、元型、イデア、法則、原因の結果としての現れがあります；結果、結果としての素質的可能性があり、素質的可能性は神の計画に向けて助けを提供するでしょう。神の計画は神の黙想のなかにあり、絶対存在の中にないものは何も生じません。

EREVNA/SPA47/KE8/NO/1